

棚田に吹く風

2018
夏
Summer
季刊

2 特集

棚田×ART

現代アートは棚田に内包される

5 フォトエッセイ

棚田三昧

6 棚田・里山からのたより

無名の棚田が全国7位に!
地域の宝を守りたい
岩手県一関市金山棚田

8 棚田見聞録

ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く

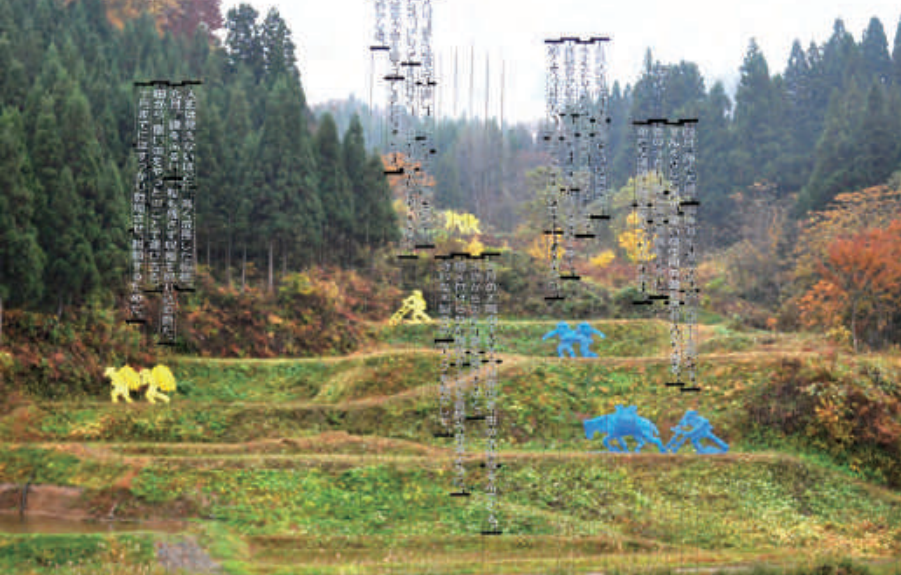
頸城地方を連想させる
吉野川上流域の棚田
高知県土佐町高須

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの かつどうノート

15 Project Report





イリヤ&エミリア・カバコフ「棚田」

棚田

×

ART

現代アートは 棚田に内包される

岐阜県立国際園芸アカデミー

相田 明

現代芸術祭の流行

本来、現代芸術祭は有名なヴェネツィア・ビエンナーレのように都市で開催され、都市における最先端の芸術を紹介する「ショーケース」であった。ところが、2000年に開催された大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」の成功以降、現代芸術祭は横浜トリエンナーレやあいちトリエンナーレといった都市だけでなく、瀬戸内国際芸術祭、奥能登国際芸術祭のように棚田や里山を有する農村、さらに道後オンセナート、中之条ビエンナーレなど、温泉地のような特徴ある地域まで広がっている。

人口減・高齢化が進行する日本では、都市、農村といった括りではなくこれに関連した問題が山積している。中心市街地の空洞化、シャッター商店、団地・住宅地の高齢化と老朽化、スラム化、廃屋の増加、農地・森林荒廃など挙げればきりが無い。

芸術祭の開催は、複雑に絡まった地域の問題に対して現代アートという切り口があるのでは、という提案である。つまり、現代芸術祭が地域の問題解決の起爆剤として利用価値があることが分かったのである。さらに、観光という視点から鑑賞券料、来場者の飲食・宿泊など消費を考えると経済波及効果は非常に高い。

大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」、瀬戸内国際芸術祭、奥能登国際芸術祭といったように、棚田を有する地域での現代芸術祭が多く開催されるようになりました。当会理事で、大地の芸術祭2009に「遷移／succession」という作品を展示し、造園家として美術作品を制作する相田明さんに、棚田と現代アートについて寄稿して頂きました。



「遷移／succession」作品設置
2009年5月31日撮影

日干しレンガが時間と共に
「自然に還る」作品



「遷移／succession」作品制作中

右:大地の芸術祭2009開会式 キナーレにて／左:
パスカル・マルティン・タイユー 「リバース・シティー」



この地ならではの現代アート

越後妻有、瀬戸内、奥能登にある現代アートは、ホワイトキューブ（屋内の白い壁の美術館）に展示された作品とはまったく違う。また、これらは「屋外彫刻」のひとつではあるが、芝生と点在する樹木がある「彫刻の森」に設置された作品とも違う。これらはどこに設置しても良いのではなく、特定の場所に存在するために制作された美術作品やその経過のことを指すサイトスペシフィック・アート（site-specific art）である。作家は棚田や農家といった環境（風土）を十分に周知しながら、この場所だけのために作品を制作したのである。

だから、人々はわざわざこの地まで訪れ、作品を鑑賞するのである。

「来訪者はもはやたんなる美術鑑賞者ではなくなり、時間と体力を要するラリーを強いられ、山あいの棚田、散在する農家、僻地の廃屋・廃校を細く屈曲する農道や林道を時間をかけて車で走り、ときに溪流を横切り、一面の水田を突き抜ける。来訪者は、否応なく山間僻地の風景を認識し、それが美しい風景であることに気づかされ、同時に、きわめて不便な生活をしている人々に思いを走らせる。アートツアーはいつの間にか山間僻地ツアーに変貌し、印象的な現代アートとともに山間僻地の風景が脳裏にやきつく。」

「作品探し」という巡礼

鑑賞者は地図を持って、細く急な農道を登り、棚田・里山の環境を感じながら「作品探し」をする。やがて作品鑑賞というより、作品を探す過程、棚田の風景やその暮らしに関心が移る。言い換えると「作品探し」という巡礼である。寺社や教会を巡礼する旅行で、自分自身



「自然に還る」作品
2013年6月22日撮影



「跡形がなくなる」作品
2010年10月30日撮影



「崩れゆく」作品
2009年7月26日撮影

右:カサグランデ&リントーラ建築事務所「ボチヨムキン」
／左: 塩田千春「家の記憶」



が成長する。同じように「作品探し」という巡礼は、その場の環境を享受し、出会った人々と交流を取りながら、自分自身が成長するロールプレイングゲームである。鑑賞者はやっと見つけた作品について、どのような意図で作者が制作したのか、など考え、自分なりの答えをみつける。そして、人によっては作品を写真に撮り、ソーシャルメディアにアップする（朱印）のである。

「自然に還る」現代アート

大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」の基本理念は「人間は自然に内包される」である。私が2009年にこの芸術祭に参加して思ったことは「現代アートは棚田に内包される」であった。棚田に包み込まれるような作品、これこそがこの芸術祭に相応しい作品である。

出展した「遷移／succession」は、作品設置場所である棚田で採取した土を型に入れ、乾燥させた684個の日干しレンガを空洞の長方形に積み上げたものである。日干しレンガは風雨で崩れ、やがてそこからは、もともと棚田にあった雑草の種子が発芽する。まさに「自然に還る」現代アートである。その後、このシリーズを4つ制作、この続編としては、ほだ木で家具などを制作し、シイタケが生え、やがて朽ちて「自然に還る」作品を制作している。

現代芸術祭も良いが、会期後、建物の裏に打ち捨てられた現代アート作品を見ると、制作する価値について考えさせられる。「自然に還る」作品が唯一の回答ではないが、現代芸術祭と経済が密接に関係する今こそ、現代アートの真価が問われる。

今年は開催年です！

〔開催地〕
越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）
<http://www.echigo-tsumari.jp>

大地の芸術祭
越後妻有アートトリエンナーレ 2018
2018.7.29.SUN → 9.17.MON

■ 作品鑑賞パスポート 一般：3,500 円／高・専・大学生：3,000 円／中学生以下無料
※前売りは 一般：3,000 円／高・専・大学生：2,500 円



人形岩から春日棚田俯瞰



写真・文
梅野 秀和

世界文化遺産の棚田 平戸市春日棚田

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関は、江戸時代を中心としたキリスト教禁制の歴史を伝える「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を世界文化遺産に登録するように勧告したと嬉しい知らせに接した。

その中の一つに平戸市の「春日集落と安満岳」やすみだけが含まれ、その構成要件として棚田が重要な位置を占めている。海を背にして平戸の人たちの信仰を集める安満岳の斜面に広がる石積の棚田は清らかな水に恵まれ、四季折々に美しい光景を見せてくれるが、禁教期にも山岳仏教信仰と並行してキリシタン信仰を続け、その歴史は過酷なものだったという。

棚田からは、「人形岩」と呼ばれる人の立ち姿のような大きな岩が見える。地面と胴体と頭がわずかに触れているだけに、何百年も倒れずに立ったまま。ここからは棚田全体が俯瞰できる。



安満岳遠望



梅野 秀和 うめの ひでかず

1947年6月佐賀県生まれ。九州各地の風景を中心に撮影。現在は古民家を背景に山里の暮らしを取材中。写真集として『九州花百景』『九州の一本桜』『だんだん田んぼの詩』などがある。2006年発行の写真集『棚田～たんぼの四季～』は第9回日本自費出版文化賞受賞。

棚田・里山
からの
たより



無名の棚田が全国7位に！ 地域の宝を守りたい

金山棚田について

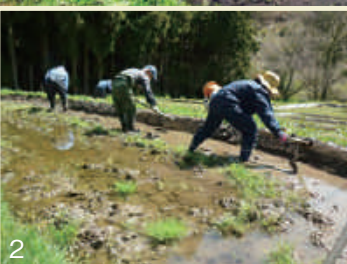
金山棚田は岩手県南の一関市舞川にあり、個人の小さな棚田で、面積42[㍎]に100枚の不整形な水田が鱗片状に広がっています。

江戸時代後期に作られたとされ、当時の姿を今に残しており、一枚が畳2〜3畳ほどと小さく、沢水と溜池に頼り、田越灌漑によって潤われています。春は一枚一枚丁寧に畔で縁どられた棚田、うるさい程の蛙の大合唱、溜池を埋め尽くす睡蓮の花や棚田を囲むあじさい、ここに佇むかのような昔の風景に出会えます。

もちろん小さな田ですから、農機具は小型耕運機のみで、畔塗り、田植え、稲刈りまで手作業で今も昔のように行われている珍しい棚田です。

棚田を守るための取り組み

耕作者の金山孝喜氏（現在80歳）夫妻が守り続けて来た棚田は景観



1：金山棚田の田植え（岩手日報掲載写真）／2：畔塗り／3：田植え／4：田植え後の記念撮影

岩手県一関市金山棚田

的にも伝統的農法を伝える上でも貴重な地域資源ですが、高齢に加え手間暇も掛かり、近い将来耕作放棄されることが危惧されました。

地域の宝であるこの棚田を守るため、平成24年に「金山棚田を守る会」が発足し、同時に一関市の「農村地域活性化モデル支援事業」の採択を受け、会員12名で保全活動に取り組みました。尚、現在は趣旨に賛同された方が増えて25名となっています。

会の活動としては先ず金山夫妻の負担を軽減するため、特に重労働の畔塗り作業をはじめ、田植え、草刈り、稲刈り等を手伝うことから始めました。同時に地元でも知る人も少ない隠れた棚田でしたので、どうかこの棚田を多くの人に見て貰いたい思いからフェイスブックでの発信や棚田の紹介リーフレットや棚田の四季の風景を収めたDVDの製作など宣伝活動にも取り組みました。また訪れる方のために道

案内板、棚田の説明看板、展望台の設置、駐車場や簡易トイレなど棚田周辺の環境整備も進めてきました。

また、都市との交流事業として大学生の稲刈り体験、中学生の修学旅行（教育旅行）の田植え体験の受け入れや一般の方による田植え体験交流会と稲刈り体験交流会を毎年行つて、食と農の大切さを知つて貰う機会としています。

体験後には、棚田米のおにぎりとおには当地方の芋の子汁の昼食、それに鹿子踊りや神楽など地域の伝統芸能のアトラクションで交流を深めています。その甲斐あってか、棚田の美しさや原風景ともいえる昔の小さな棚田に癒しを求めて、訪れる観光客やカメラマンが年々増えています。

訪れた方が記帳してくれたノートには、遠方からのリピーターの方も見られ、沢山の方々から頂く激励の言葉に金山氏を初め会員一同励まされています。

全国的には無名の棚田でしたが、昨年8月に日本経済新聞「NIKKKEEプラス1・なんでもランキング」の棚田のランキングで7位に選

ばれ、これまでに増して棚田ファンの来訪が予想されています。

今後の取り組み方について

まだまだ元気な金山氏ですが、今年81歳を迎える事や会員の高齢化等で棚田の維持が困難になって来ている状況です。現在、行政主導の基で世界文化遺産平泉を中心とする隣接地域による「東稲山麓地域世界農業遺産認定」に向けた取り組みが行われています。

金山棚田もこの東稲山麓に位置し、かつ農業遺産として象徴的棚田でもあることからこれまで以上に注目されています。こうしたことから

もこの棚田を継続的に守り続けて行かなければならなくなりました。

金山棚田を守る会、行政、地域一体となって今後の体制構築を進めています。具体的には、①現在の有志の会から地域の課題として地域共同体での運営、②地域の若者の加入勧誘や地元高校、大学などの学生ボランティアなどに継続的な応援を要請、③棚田オーナー制度や棚田トラスト制度の導入による活動資金の確保、これらの計画を何とか成し遂げて、昔ながらの棚田の原風景を残し、訪れる方の期待に応えるよう活動を続けて行きたいと願っています。

（金山棚田を守る会事務局 小岩浩二）

棚田へのアクセス

【公共交通】 東北新幹線一ノ関駅前から摺沢駅行きバスに乗車、バス停「土樋」下車し県道261号を300mほど進むと「金山棚田」の看板あり。ここから徒歩約20分

【自動車】 東北自動車道一関ICより国道342号、県道14号、261号経由で棚田へ。一ノ関ICから約20分

お問い合わせ

舞川市民センター

一関市舞川中里84-1 TEL:0191-28-2111



看板の設置

《田んぼに入る絵描き》の 棚田見聞録

絵・文 酒井英次

ネットワーク会員の大門正明さんが、休耕して40〜60年の田を5年掛かりで復田しました。27枚、約1反（1000㎡）です。重機なしでの作業は文字通りの手作業中心で、木の根除去など難行苦行でありました。ネットワークの友人や他の知人等の助力もあり、2015年に完成しました。今や、眼前に鹿島槍から白馬三山など北アルプスを眺望する堂々たる棚田であります。

長野県大町市美麻・青具の付近に行ったら、是非、この大門棚田へお立ち寄り下さい。又、田植えや稲刈り作業にもご助力下さい。

なお、この画は今秋のエコギャラリー新宿1階区民ギャラリーでの個展に出品します。本画を見て下さい。

「民俗の風景 棚田と雪形（V）」

酒井英次 絵画展

【日時】

2018年8月29日（水）〜9月3日（月）
10時〜18時

（但し8/29は13時より。9/3は13時まで）

【会場】

エコギャラリー新宿1階・区民ギャラリー
（東京都庁隣接の新宿中央公園内）

全国の棚田や雪形の絵画約50点を展示。人々が営々と築き、伝えてきた文化的景観「棚田と雪形」をご覧ください。



新・古田図（美麻・青具）
（182×606cm、2018年4月作）

ヨネちゃんの



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介
第十五回

第十五回は愛媛県大洲市にある榎谷（かしだに）の棚田を紹介するわね！



遡ること江戸時代初期には存在していたというこの棚田は、大洲市のJR白滝駅から車で約20分くらいね。途中は細く険しい道もあるから、運転には要注意よ！

この榎谷棚田では、我らが棚田ネットワーク代表・中島峰広先生の呼びかけで保存会ができて、H28にオーナー制度がスタートしたの。会費は年間30,000円。田植えと稲刈りの作業はオーナーになる必須条件よ！作業時にはお食事の提供もあるし、その他、季節によっては大洲産の新鮮な野菜や果物の贈呈もあるんですって！嬉しいわね～！！

次のオーナー募集は来年1月よ！詳細は榎谷棚田保存会まで問い合わせてみてね。

<https://sites.google.com/site/kashidanitanadahozoikai/>

＼ こちらもチェックしてみてネ！ ／

棚田オーナー募集地域紹介サイト

棚田百貨堂 検索

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

頸城地方を連想させる 吉野川上流域の棚田

高知県土佐町高須



150ヘクタールを 超える大棚田群

2017年12月下旬高知に向かう。岡山から瀬戸大橋を渡り、多度津から土讃線に入る。さらに大歩危・小歩危の峡谷に沿って吉野川を遡り、嶺北地方の玄関口大杉で下車する。大杉からは土佐町の中心市街地田井まで1日8便、とさでん交通のバスが走っている。それから先はタクシーを利用したがよい。

私は大杉駅で迎えてくれた南君の車で現地向かう。駅前から直進、吉野川の支流穴内川を渡り右折、国道32号を500メートルほど走り、

交差点を左折して国道439号（よさく）に入る。新高須トンネルを抜けると急に視界が開け吉野川本流の谷底平野に出る。さらに西へ向かう。

なかしま みねひろ 中島 峰広（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部歴史科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

い、土佐町の中心田井に至ると、右手に四国の水がめ早明浦ダムが見えてくる。国道は田井を過ぎると方向を南に転じ、土佐町の役場がある集落土居を過ぎてしばらくすると土佐山に向かう三叉路が現れる。ここで左手の県道16号に入ると、再度土佐町堆肥センターの看板が立つ三叉路になり、左手の町道へと進み坂を上れば高須の集落である。

棚田は、吉野川支流地蔵寺川に注ぐ相川川の河岸標高350メートル辺りから600メートル付近までの傾斜6分の1〜7分の1の斜面を覆いつくしている。さらに、わずかな分水界を隔て伊勢川左岸の溜井、右岸の伊勢川地

高知県には四万十、仁淀、物部、吉野の4つの大河があり、前3者は南の太平洋に流れるのに対し、吉野川は分水界となる山嶺の北側を東に向かい紀伊水道に注いでいる。その吉野川の上流域に位置するのが土佐町である。高須は土佐町の南東端、隣接する溜井、伊勢川とともに標高1131メートルの笹ヶ峰の斜面を覆いつくすように棚田で占められている。その景観は日本一の棚田卓越地である新潟県頸城地方の景色を見ているようだ。

訪問は教え子の一人、高知市在住の写真家南博彦君からの便りによるもの。私が未だ見ていない高知県で最大の規模といえる吉野川上流域の棚田を案内したいという連絡を受け実現した。

区の棚田につながり、150畝をこえる面積になっている。この広がり
と土坡の棚田ということが頸城地方
の景色を思い出させるのだらう。

大正時代に用水路を開削

現地での聞き取りによると大正期以降の開田という。大字高須には標高の高い順に台、高須、井林、檜山の4字があり、それぞれの字で台井(3000[㍎])、字高須分の大正井(5216[㍎])、井林井(1500[㍎])、檜山井(1000[㍎])の用水路を笹ヶ峰の中腹から開削。旧高須小学校に建てられた大正井の竣工碑によると、大正2(1913)年に高須耕地整理組合が設立され、大正14(1925)年に竣工。工事費20035円、開田面積48・6[㍎]と

いう記録が残っている。竣工までに10年以上の歳月を要しているが、重機のなかった時代、ほとんど人力によるものと思われ、あの巨大な法面を見る時、造成の労苦は想像を絶するものであったらうと考えられる。

地質的には頸城地方同様、開発に際し石が少なく、あつても軟らかいため四国では珍しい土坡の棚田になっている。棚田を見た印象は、一枚の面積が大きく、法面の土坡が高く骨太の感じ。面積は小さくても5[㍎]前後、大きなものは50[㍎]をこえ、土坡の高さは2[㍎]以上、中には10[㍎]を超えるものもみられる。

「土佐柴刈りの里」の看板が立つビューポイントから眺めると、浅い谷を中央にして正面、右手、左手の3方から谷に向かって棚田が形成

されている。正面は道路下から数段、広さが10[㍎]前後、法面の高さは2[㍎]3[㍎]。その下には広さ4[㍎]5[㍎]、高さが2[㍎]ほどの棚田が5段、谷に向かって下っている。右手からは谷に向かって7段の棚田、畦はほぼ直線、広さは10[㍎]以上、法面の高さが4[㍎]5[㍎]、最上段は10[㍎]を超える高さである。左手は道路を挟んで上下2段になっているが、下段は広さが60[㍎]、法面の高さは20[㍎]という巨大なもの、豪快という感じの棚田群である。

守り人はメカの好きな名士

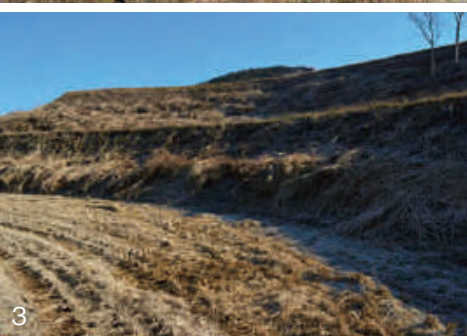
町役場で紹介された棚田の守り人は、町会議員や県議員を務めた町の名士、式地寛肇(しきぢひろはら)さん75歳、そのキャリアを感じさせない根っからの百姓

という雰囲気、いつでも農作業に出かけられるという出で立ち。家族は奥さん73歳、高知市の測量会社勤める長男48歳、その妻と今年役場に入った孫の5人。農繁期には全員が農作業に従事する米作農家だ。

地元の高校を卒業後5年間高知市内の電気店で働いたが、23歳の時に帰郷、父親とともに農業に従事するようになった。高須は、大正井が開削されるまで、粘土質でムギなどの畑作物にも適さない土壌であったため、木炭やミツマタなど主として山の産物に依存した生活。水田は湧水を利用し飯米を確保する程度、式地家でも祖父の代は20[㍎]30[㍎]を所有するのみ。父の代になって大正井の開削により1・3[㍎]を所有するようになった。

この水田耕作と町内の土建会社に勤める兼業農家を続け、46歳の時父親の後を継ぎ町会議員になって、4期16年間議員を務め、議長にもなった。その後県議員を2期務め70歳で政界から引退した。この間も農業は続け、水田も買い増し3・8[㍎]、27枚を所有するまでになっていた。

その水田は5か所に分散しているが、1枚の面積が平均14[㍎]もある



1: 早明浦ダム／2: 一枚の面積が広い／3: 高い法面の土坡／4: 式地寛肇さん

り、棚田地域としてはきわめて大きい。このため所有する機械類も大型。トラクター2台（25馬力、48馬力）、乗用6条田植機2台、コンバイン2台（3条刈、4条刈）、乾燥機など平坦地水田の大規模農家並み。このほか草刈機6台、バックフォア（バケットの容量0・25m³）を所有、趣味が米づくりとアマチュア無線。メカ好きという言葉裏付ける内容だ。

これらの機械類を駆使した農作業のなかで、最も大変なのが畦と法面の草刈り。一家総出で6台の草刈機を駆使して行っが、ことに奥さんが草刈り上手といわれている。畦は年3回、一巡するのに10日というから、年間30日の作業量になる。法面は高さが2mを超え、ものが多いため、年1回しか行うことができない。その作業現場を見せられたが、高さ4mを超える法面の場合、バックフォアのアーム部分に80万円したという回転歯付きのアタッチメントを装着、畦や法面に対して直角に重機を置き、2m間隔で横に移動させながら法面の上下から草刈りが行われる。アー

かけて焼くという。見るからに大変な作業だ。

水田の命ともいえる用水路は、それぞれの井に分かれて管理が行われている。大正井では関係する35戸で維持されるが、現在は幹線の上流部3段は直径30cmのパイプ、残りは3面コンクリート水路になっているので、3月末全員で行う田役と呼ばれる作業も半日で終わるそうだ。勿論それ以下の自分の水田までの導水路は各自で草刈りと管理を行う必要がある。

無農薬・減農薬で栽培

吉野川源流米として出荷

収穫されるコメは、味がよいと定評のある粘土質土壌で栽培され、



草刈用回転刃アタッチメント

「吉野川源流米」としてコブ自然派連合や大地を守る会などに出荷。

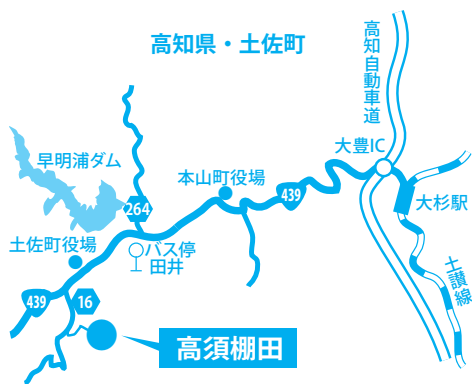
式地さんは高須・溜井地区の25名でつくる生産グループの代表を務めている。品種はヒノヒカリや姫ごのみ。無農薬が除草剤1回の減農薬、町の堆肥センターで作られる堆肥を使用した特別栽培米として差別化が行われ、30kg当たりおよそ減農薬の場合7400円、無農薬は一万円で販売されているそうだ。

このように、吉野川上流域では棚田地域であっても、大正井を受益と

する農家35戸が水田48・6haを耕作していることからわかるように、1戸当たり1ha以上の棚田を所有する米の販売農家が多い。これら農家は、大部分が町内の行政機関や土建業、一般企業などに勤める兼業農家であるが、先祖が苦労して造成した棚田を後世に伝えなければなら

ないという思いが強い。これらの理由から放棄地がほとんど見られない棚田地域が形成されているのではないだろうか。

都川の棚田へのアクセス



【公共交通】土讃線大杉駅前より1日8便の「とさでん交通」田井行きに乗り約30分の終点で下車。バス停からタクシー利用で約10分

【自動車】高知自動車道大豊ICより国道439号線を西方面に進む。土佐町役場を過ぎ間もなく県道16号に入り2km進み「土佐町堆肥センタ」の看板がある三叉路を左折。坂道を上ると一帯に棚田が見えてくる。大豊ICから約20km

卒論の現地調査で学んだ 坂折棚田の魅力

東京都町田市 玉井 杏

はじめまして。GIS(地理空間情報システム)会社で研修中の玉井杏と申します。棚田ネットワークの活動も新米でございます。

さて、ここでは、私の大学4年時の岐阜県恵那市坂折棚田での経験をお伝えしたいと思います。私は、坂折地区の現況、棚田保全の意識について調べるため、約30日間、現地調査を行いました。地元の農家さんのお宅でお世話になりながら、毎日のように標高差約200メートルの集落を歩き回り、住民の方々をお訪ねしたことは、今でも鮮明な記憶として身体に残っています。坂折は、雲の動きが早く、雨が降れば神々しく霧が立ち、夕方には笠置山に影が落ちる…。まるで1日の中に四季があるような美しい人里です。

その一方で、山際の消滅してしまった棚田、大人の身長ほど草木が伸びきった土地、風土を熟知する語り部の消滅など、時代の流れによる悲しい姿も見ました。

しかし、一軒ずつお話を聞くと、坂折の人々の個性、逞しさもしみじみと感じました。石積み、圃場整備、三日月型の等高線土地改良、山までもが棚田など…どれも私の胸を打つようなお話でした。それぞれの方の保全観は棚田一枚一枚のように異なり、誰一人欠けても当集落は維持できないことを痛感した



しました。ゾーニングという大きな事業の狭間で時には衝突し、農地のかたちが変わり、わだかまりが生まれたとしても、「棚田を守りたい」という気持ちはみな一緒なのです。

私には、将来、中山間地域と都市の距離を少しでも近づけるべく、棚田・谷津田が広がる地域のポータルサイトを立ち上げたいという夢があります。それは、言うなれば「みんなで書き込む地図」です。流通・情報の隔たりを解消し、棚田一枚一枚の意味を発信する事で、有効的な土地活用、地域アピールができればと考えています。外と内の視点が交わる所で、その地域にしかない魅力を再発見してみませんか。

これからみなさまとお話し出来ることを、心より楽しみにしております。

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿セーバー1616 トーシンハイムセーバー4号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛メールでも受け付けています。↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの
Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



滋賀県高島市 畑棚田

京都府 伊豆蔵直人

毛原のオーナー制度に参加して2年目となります。近頃は棚田とそこに暮らす人々にも興味が湧いて、休日に近場の棚田を訪れたりもしています。

棚田CAMPING

「棚田の中でキャンプしませんか？」

東京都西東京市
玉崎 修平

ご存じの通り、棚田は減反政策とともに耕作放棄が進みましたが、保全活動を通して徐々に復活して共感者も増えてきました。

先人の築き上げてくれたこの農業遺産に対して、次の一歩はその魅力在未来に向け、農業の生産性とは異なるアクションが我々には必要だという強い想いを結実したい。それが、棚田CAMPINGであり、テナント数36張、100人以上が参加する企画となりました。

真田家ゆかりの郷、信州上田「稲倉の棚田」は、眼下に広がる市街からのアクセスビリティと、温泉や観光史跡へ簡単に足を運べるというメリットがあります。

そこで、ゆつくりと棚田を満喫する3つのイベント「耕耘機で田おこし体験／棚田米の飯盒炊き体験／キャンプファイヤー体験」、それにたつぷりと観光するための「十分なフリータイム」を軸に構成しました。

結果的には、観光（史跡・街道・温泉地）75%、買出し（地元スーパー・農産物直売所・道の駅）88%の人が足を運び、風呂がなく自炊するキャンプならではの地域貢献が実現しました。

次回は、2018年11月3日（土）〜4日（日）にバージョンアップして開催予定です。棚田の新米が味わえる季節を皆さんに是非、味わってもらいたいと思っています。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



千年の田んぼ
国境の島に、古代の謎を追いかけて



著者：石井里津子
1500円（＋税）
旬報社
2017年12月

棚田をはじめとする日本各地の農山村を20年以上取材してきました。時には、離島の農村にも。話の舞台、山口県秋田市見島は、日本海の荒波の向こうにある国境の島です。見島は棚田も多い上に、小さな島にはめずらしく平坦な田んぼ、「八町八反」（字名）が広がっています。その水源は、田んぼの隅っこに掘られた、小さな三角のため池群。なぜ、こんな水利なのか。そんな疑問からはじまり、不思議な風景の謎を一つ一つ解き明かしていきました。田んぼの風景がこんなにも雄弁で、こんな千年の旅へと誘うなんて、と驚かせてみせますよ。（著者より）

ほたるの川のまもりびと



2017年／日本
配給：ぶんぶんフィルムズ
監督：山田英治

2018年7月7日 ユーロス
ベースほかにて公開



棚田百選の「日向の棚田」がある長崎県川棚町のこうばる地区には、50年もの間ダム建設計画に翻弄される13世帯の家族がいる。のどかな棚田での昔ながらの生活を淡々と送りながら、今や誰もが理解不能な「ダム建設による集落消滅」という見えない恐れと戦い続けなければならない虚無感が、通奏低音のように描かれるドキュメンタリー。

オーライ!ニッポン大賞表彰式

2018年3月26日 報告 高野 光世

春号の編集後記で滑り込みでご報告しましたが、棚田ネットワークが「オーライ!ニッポン大賞」を受賞し、虎ノ門のイノホールで開かれた表彰式に出席しました。オーライ!ニッポンは“都市と農村の往来を盛んにし、日本をオーライにしよう”という国民運動で、まちむら交流機構が事務局です。

応募92団体の中から大賞が4団体、審査委員会会長賞が2団体。ライフスタイル賞5個人なども選ばれました。式の後にはオーライ!ニッポン会議の養老孟司代表の基調講演と受賞団体の活動報告があり、全国各地の本当に多種多様な人たちの活動を知ることができました。



春のミニ講演会

2018年5月26日 報告 高野 光世

今年もやりました。年一回の通常総会後のミニ講演会。

まず会員の玉崎さんから“棚田でキャンプ!”の報告(13ページを読んでね!)。次は、やはり会員の川澄雄司さんの「蜂蜜」のお話。川澄さんは首都圏の4箇所養蜂をしておられて、蜂はいったいどこで蜜を集めているのか、風土や季節によって蜂蜜の味にどんな違いが生まれるか、などなど、ほかではなかなか聞けない興味深いお話でした。そして最後は中島代表が登場。「先人の研究があつてこそ、後から続く人の研究が成立し、学問が進んで行く」という、実例を挙げての話に、みんな聞き入っていました。



棚田ネットワークのかつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

関西初の田植えイベント開催しました

6月3日に大阪府千早赤阪村の棚田百選選定「下赤阪の棚田」で、棚田ネットワークとして関西初の田植え体験イベントを開催しました。この企画は、関西の企業である象印マホービン株式会社が運営する「ライスマイルプロジェクト」で今年の2月に棚田保全への寄付アクションが行われ、当会がその受け皿になったことに対するお礼。プロジェクトの会員及び象印の社員の皆様を、関西地方の棚田での田植え・稲刈り体験に招待することになったものです。

炊飯器メーカーである象印は、ごはん好きの和を広げるためにWEB上で“ライスマイルプロジェクト”を展開していて、写真や川柳の投稿、実際のお米作り体験、料理教室への参加など、たく



2018年6月3日 報告 高桑 智雄

さんの楽しい企画があります。今回は「下赤阪棚田の会」の千福会長の協力を得て、約50名のプロジェクト会員を受け入れてもらいました。

午前中は棚田から車で5分ほどの「道の駅 ちはやあかさか」で村立郷土資料館の見学、心のこもった地元食材によるおむすびとスープのランチ、そして午後から田植え体験というお楽しみ満載のイベント。当日は日差しが強く田植えには暑すぎるくらいのお天気でしたが、大阪都心から約1時間というアクセス抜群の棚田で、ほとんどが田植え初体験の親子がにぎやかに汗をかきました。

稲刈りは10月中旬に予定されています。関西の会員の皆様、ご参加お待ちしております。



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

賑やかな棚田での 田植え体験



当ネットワークの千葉県鴨川市の川代棚田でのお米づくり体験プログラムも4年目を迎えます。今年は象印ライスマイル会員の参加や朝日新聞のイベント紹介記事もあり、田植えは5月3日60名を超え、オーナー制度の参加者と合わせ200名を超える賑やかな田植えとなりました。当日は、前線の通過で天候が心配されましたが、9時過ぎには雨もあがり、ますますの田植え日和。今年は、現地集合方式に改め、体験田も2枚に増やし、日程も基本的にオーナーさんと合わせることで、地元の皆さんの負担をできるだけかけないようにしました。オリエンテーションでは、中島代表のあいさつの後、亀田鴨川市長が歓迎のあいさつ、地元の庄司代表が歓迎と田植えの仕方について簡単に説明し、田んぼに移動し田植え体験に入りました。田植え体験は、子供さんの参加が21名もあり、どろんこに足を取られながらも、真剣に苗を植えていき、慣れてきたころは、おたまじゃくしやかえるを捕まえるなど賑やかに楽しみました。お昼は、地元婦人部のたけのこご飯に味噌汁、唐揚げ卵等の手作りお弁当を、さわやかな新緑と植えたばかりの棚田の景色を見ながらおいしくいただきました。その後、交流会で自己紹介や感想をお互い聞きながら、8月26日(日)の稲刈り体験まで無事成長することを祈り解散しました。(杉山 行男・上久保 郁夫)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

田んぼはオタマジャクシだらけ!



「雀始めて巣くう」3月21日(水祝)、あいにくの雨の中、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第11回かえるの卵を探そう!」が開催されました。今年は岐阜や愛知から子供に棚田(自然)の環境を体験させたいという保護者が大変多く集まり、31名に参加して頂きました。いつもは棚田ビオトープで卵塊を観察した後、坂折棚田の中を歩くのですが、雨のためそこで解散。その後の2回の調査の結果、今年の卵塊数は115個となりました。

「蚕起きて桑を食む」5月23日(金)、棚田ビオトープの田植えを少雨の中、国際園芸アカデミーの学生を中心におこないました。水田の中はオタマジャクシだらけ。素足で入ることが出来ない参加者もありました。ヤマアカガエルはこの水田に18卵塊を産んだので、ひとつの卵塊を1000個とすると、1.8万匹という計算になります。もちろんすべてが大人の力エル(成体)になる訳ではないのでご安心下さい。その他、ニホンイモリ、シュレーゲルアオガエルの成体もみることができました。7月28日(土)10時から、こどもビオトープ観察会を開催する予定です。(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

畦切り・蓑口づくり～畦付け・畦塗り～田植え



3月24日・25日に最初のイベント「畦切り・蓑口作り」を開催しました。水の溜まりが悪いのは蓑口の土台をちゃんと作らないからだという靖会長の指摘により、今年は大量の粘土を投入して蓑口まわりを強化しました。しかしその後2年ぶりに猿の襲撃で蓑口全壊(笑)。代掻き時にスタッフで何とか修復し、4月29日・30日に「畦付け・畦塗り」を開催。手慣れた常連さんが多く、近年稀に見る保水力の高い田んぼが完成!そして、5月19日、20日には、今年も無事「田植え」を開催することができました。子供たち8名を含む26名の参加し、滞りなく田植えが終了。ホッとしたのもつかの間、今年は猪が多く、特に私たちの田んぼが集中攻撃されていると連絡が!猪が好む虫が多いのか蓑口がほじくり返され、水が溜まりにくくなっているとのこと。そうは問屋が卸してくれないのが棚田です(笑)。(高桑 智雄)



第24回

全国棚田千枚田サミット

あたりむら

長野県小谷村

—「集う」仲間と「守る」暮らし— 平成30年9月8日(土)・9日(日)

事例ディスカッション

これからの農業を考える!

～山間地農業の共存の在り方～

分科会

小谷村の暮らしから見る“食と農”

～箱膳が伝える「食べごとの心」～ ほか

ツアー

北アルプスめぐりツアー

あたりむら
小谷村

第24回 全国棚田(千枚田)サミット 開催地:長野県北安曇郡小谷村 主催:全国棚田(千枚田)連絡協議会
 主管:第24回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷131 小谷村役場内
 TEL 0261-82-2865 FAX 0261-82-2866 E-mail info@otaritanada.com URL http://otaritanada.com/



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。

消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

東京都心から一番近い棚田は、横瀬町寺坂といわれ、池袋から2時間程度。ただ池袋と新大阪を比べるわけにはいきません。池袋は天王寺くらいと考えれば、下赤阪は、その気軽さからいって、とてもなく都心から近い棚田といえます。ただ、残念ながら「あべのハルカス」は見えませんでした。

棚田ネットによる初めての関西での田植えイベントということで大阪・千早赤阪村に行ってきました。前日に新大阪に泊まり、朝大阪メトロで富田林まで約1時間。そこから30分一本出るバスに20分乗って、あとは徒歩数分で、「ここはどこ?」と思える桃源郷「下赤阪の棚田」へ到着。まあ、何だかんだいって2時間ぐらいはかかりました。

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<http://www.tanada.or.jp>



2018年 夏号 Vol.108

発行



認定NPO法人

棚田ネットワーク

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
 Tel / Fax 03-5386-4001
 e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
 郵便振替口座 : 00100-7-151565